

丙 供覽

情第一二六五號

昭和十八年七月二十四日

管理局長

監理課長

事務官

臺灣總督官房情報課長

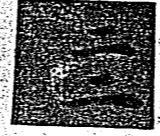
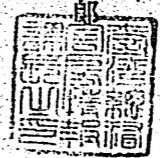
小

太

内務省管理局長殿

皇民奉公叢書第十三輯送付ノ件

皇民奉公會發行ニ係ル皇民奉公叢書第十三輯「我が海軍」ノ威容ニ五部迄御参考及送付候也



皇民奉公叢書

第三十輯

# 海軍の威容が

附メカリの内情

皇民奉公會刊行

海軍の威容が  
附メカリの内情

REEL No. A-0510

0054

アジア歴史資料センター

皇民奉公叢書

第三十輯

我が海軍の威容

附メリアの内部情

皇民奉公會中央本部

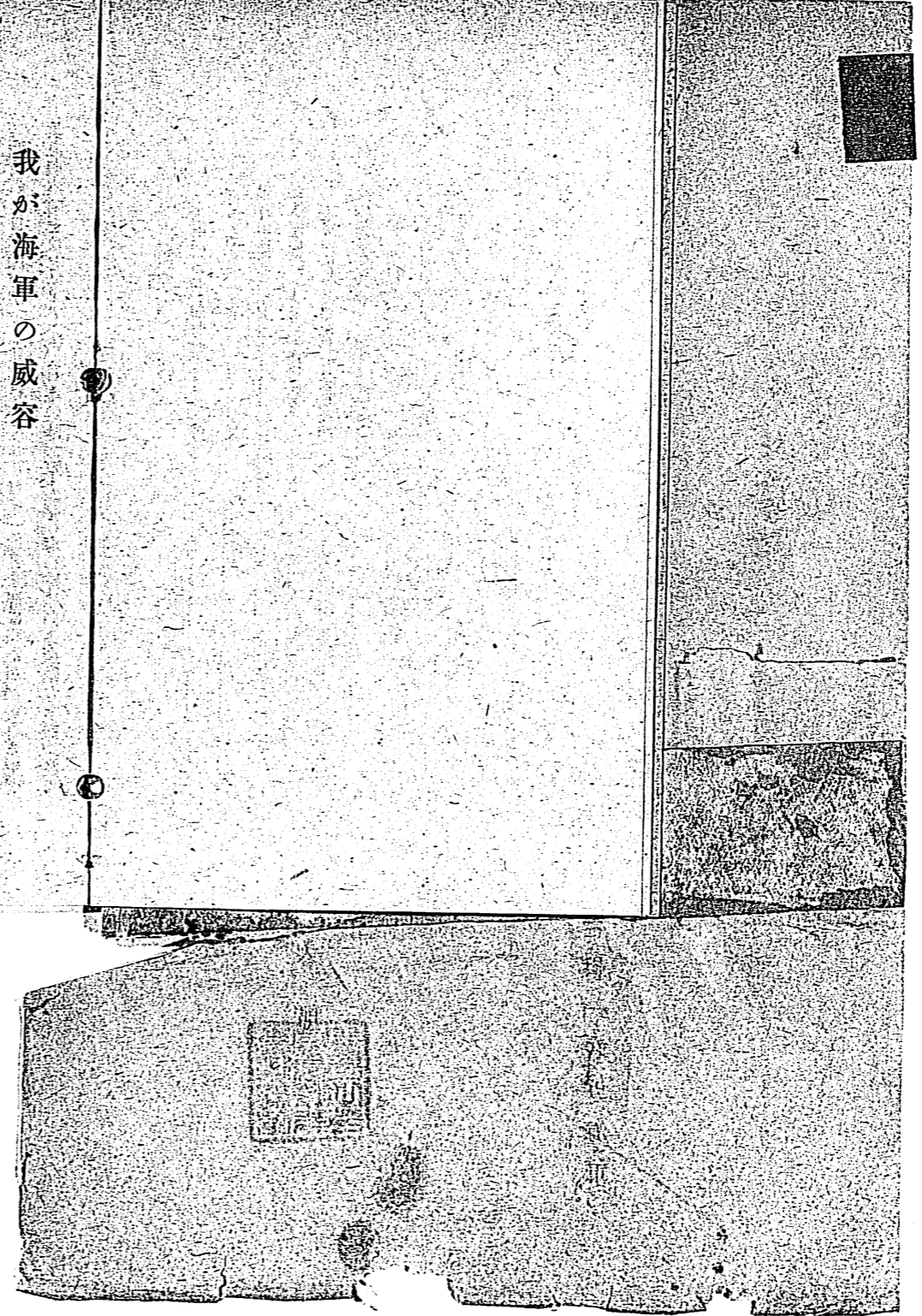
REEL No. A-0510

0055

アジア歴史資料センター

目 次

一 帝國海軍の綜合戰果	二
二 日本軍恐るべし論	四
三 日本は艦船の不足なし	五
四 瀛洲海軍軍令部長日本海軍に脅威	七
五 米國海軍長官及幕僚長の日本海軍觀	八
六 特別攻撃隊に對する畏敬と脅威	一〇
七 大東亞戰爭とわが海軍	一四
八 敵側の恐れる帝國海軍	一五
九 海軍の戰闘隊	一六
十 日本海軍の精鋭力	一七
十一 無敵潜水艦を語る	一八
十二 敵の怖れる我が造艦技術	一九



### 我が海軍の威容

#### 一 帝國海軍の綜合戰果

開戦以來今日迄の我が海軍の擧げた戰果を綜合すると、飛行機は擊墜擊破を合せて、五〇三四機、擊沈した艦船は戰艦二三隻、航空母艦十二隻、巡洋艦五五隻、驅逐艦五六隻、潜水艦一二八隻で其の他の艦艇六九隻である。この外擊破したものの多数に上つてゐる。又擊沈した商船は三六九隻、三二五萬トンに達してゐる。

之に對する我方の損失は飛行機八七八機、戰艦二隻、航空母艦三隻、巡洋艦三隻、驅逐艦一九隻、潜水艦十二隻、其の他艦艇一三隻及海軍關係船舶九八隻約三五萬二千トンであり、大體平均五分の一乃至十分の一の割合である。

## 二 日本軍恐るべし論

開戦直前には極端な對日過小評價論が全米を横行した。「米國海軍の實力を以てすれば、日本海軍の如きは三ヶ月を出でずして、撃滅されてしまふだらう」とか「米國空軍にとっては東京空襲の如きは週末ビッグニツクにも等しい」とかいふ暴論が大喝采を以て迎へられた。しかもかゝる暴論が政府の高官とか、上院議員とかの責任ある地位の人々によつて發言されてゐたのである。

支那事變さへも除してゐる弱國日本が、世界一の富を有する強國米國とどうして戦争が出来るものかといふのが、開戦前の米國民の常識だつたのである。

戦前の對日認識がかゝる状態にあつただけに一度日米間に戦端が開かれるや、真珠灣空襲をはじめとして、日本の陸海軍が陸に海に空に向ふ所敵なき勢で赫々

たる戦果を擴大して行くことが、一般米國人の眼には實にあり得べからざる奇蹟が起つたといふが、映らなかつたに違ひない。だから戦争の初期には、日本軍の實力を見せつけられながら、「對日見縊り病」を清算し切れず、真珠灣に來襲した海軍機には獨逸の飛行機が入つてゐたとか、上陸作戦の部隊中にはドイツ人將校が指揮をとつてゐたとかの報道が頻りに傳へられた。

然し戦争が進むに連れて日本軍が戦闘力の點でも、作戦の點でも或は又兵器に於ても如何に優秀且つ恐るべき軍隊であるか、次第に認識され出し、現在に於ては米英の心膽を塞かしめてゐるのである。南太平洋第一線を視察した米國軍事評論家ハンソン・ポードウインは

「太平洋を舞臺とする戦争は激烈、凄惨を極め反樞軸軍が急速且つ容易に戦勝を收め得るなどといふことは、到底考へられない。前線で戦つてゐる大多數の米軍將兵はいづれも日本軍は世界中で一番恐るべき陸海空軍であり、日本こそ米國

の第一の敵であると云つてゐる。」と報じてゐる。  
斯くして敵側には「日本恐るべし論」が行はれて國民に警告を與へてゐる。

### 三 日本は艦船の不足なし

米國軍事評論家ハンソン・ボールドウィンは、日本の艦船の事情に付き左の通り米國民に對して發表を行つてゐる。

日本が過去二年半の太平洋戦で若干の艦船を消耗したことは事實である。然し、ノックス海軍長官等が日本が非常に多くの艦船を失つた様に發表してゐるのは餘りに樂觀的に過ぎる判断であらう。日本は開戦以來マニラ、香港、シンガポール、その他で相當量の船舶と造船設備を獲得してゐる。其の上各領土間を連絡する小型船舶を多数に建造してゐる。其の上に日本は既に占領地内に戦争遂行の爲必要な物資を殆ど全部所有してゐる。日本海軍は多少の損害を蒙つてゐることは事實であるが、主力艦隊は殆ど無疵である。其の上最近新戦艦や新航空母艦を建造してゐる。米國が多少の損害を與へても償はれるであらう。

### 四 濠洲海軍軍令部長日本海軍力に脅威

濠洲海軍軍令部長中將ロイルは昨年十月トラファルガル戦勝記念日に次の如く放送す。

大東亞戦争に於て日本軍が好きな時好きな場所の上陸してゐるのは全く日本海軍の海上勢力に起因する。戦前濠洲が海上の安全を保障されてゐたのは英國海軍に負ふ所が多かつたが、今日濠洲の安全は米國の海上勢力に頼らねばならぬ破目となつた。飛行機による空輸を過大評價して濠洲は自己の海軍を持つ必要がない

と説く者があるが、以ての外である。  
軍隊の海上輸送の安全を確保し、太平洋に於ける新たな安全感を確立する爲には、  
濠洲も亦独自の強大な海軍を保有せねばならぬ。

### 五 米國海軍長官及幕僚長の日本海軍觀

日本大本營の度重なる海軍大戦果の發表に驚いた米國新聞記者達は海軍長官ノ  
ツクスに向つて、「米國海軍の日本海軍に對する自信はどうか」との質問  
に對し左の通り答へた。

南太平洋水域では日米兩國の有力艦隊が未だに交戦中であり、日本海軍の強大  
な實力集中に鑑み、今此處に勝敗の數を豫言することは出来ない。尤も戦闘の歸  
趨に關しては米海軍の敗北を豫想するのではないが、然し太平洋戦争は非常に激

烈困難な戦争であり、一面消耗戦であつて殊に同方面の日本軍が非常に有力であ  
ることを認めなければならぬ」と弱音を吐き、軍令部幕僚長中將リチャード・エ  
ドワーツも

南太平洋水域に於ては現在の處兵力の點で米國海軍は非常に劣勢である。此の  
際特に米國民の注意を喚起したいことは、英國の海軍が開戦以來大損害を受けた  
結果、現在の英國海軍は日本より遙かに劣つた海軍國となつてゐること、これ  
は米國にとつても非常な痛手である。米國海軍が何故日本本土を攻撃しないかと  
聞かれるが、現實の問題として米國海軍は東亞水域にかゝる作戦をなし得るだけ  
の兵力を持つてゐない。噸數、装甲及び武器、就中防空兵器の點で優秀な戦闘艦  
隊が出来上つた時こそ米國海軍は日本海軍に戦を挑む時期だがこれはまだ研究の  
域を脱してゐない。」と敗戦辯論を試みた。



六 特別攻撃隊に對する畏敬と脅威

布哇真珠灣奇襲の第二次特別攻撃隊及び赤道越えて真ニ文字に濠洲の敵都シドニー並びに印度洋の彼方マダガスカル島のダイエゴ、スワレス灣頭を攻撃せる第二次特別攻撃隊の偉勳は、必死奉公の帝國海軍軍人魂を遺憾なく發揮したもので全世界に偉大なる衝動を興へ敵を震撼せしめた。敵側海軍は其の後と雖も我勇敢なる挺身攻撃の幻影に脅えて真に戦々兢兢たるものがある。

中馬中佐以下六勇士が、狹隘なるジャンクソン水道を潜行してシドニー港内深く侵入し、敵艦を奇襲したのは昭和十七年五月三十一日の夜のことであつた。突然の爆音、火焰等によりシドニー港市は戦慄と恐怖と狼狽の渦の中に叩き込まれたのであつた。

其の後中馬、松尾、大森、都竹の四勇士の遺骸は敵の手によつて発見された。傲慢不遜の米英の片破れである濠洲政府も流石に勇士の行動には痛く感激させられて、濠洲政府は四勇士の遺骨に對し厳肅な海軍葬の禮をとり厚くこれを弔つたのである。

然るに濠洲民の中には「如何に勇敢なる行動をなしたるとは言へ、當面の強敵たる日本軍人に對して海軍葬の禮をとるとは誠にけしからぬ」と云ふ議論が擡頭した。

茲に於てシドニー鎮守府長官たるグールド少將はラジオ放送を通じて「海軍葬に對し種々議論があるやうだが私は皆様にお訊ねしたい。勇敢な人達をお祀りしたのが何處が悪いか。勇氣は特定の國の所有ではない筈だ。勇氣は一樣に褒め讃へるべきである。日本の勇士はくろがねの柩に乗つて來襲した。全濠七百萬市民の中、果してこの勇士の千分の一の勇氣を以て祖國に殉じ得るものぞ

も幾人かあらう」と言つてうつたへた。  
敵をして斯く迄に讃嘆せしめたる所以のもの我が海軍魂の遺烈によらずして何であらう。

### 七 大東亞戦争とわが海軍

海軍戦略實施の目標が第一に敵海軍力の撃滅若くは無力化にあり、次に敵領土の攻撃占領であり、更に進んで敵の戦争資源及び國民生活上の必需品の供給杜絶にあることは、多言を要しないところであり、一方海上作戦の見地よりこれを見れば、制海權、制空權の獲得とその行使に二大別されることも明白である。

大東亞戦争における諸海戦がこの線に沿つて、米英制覇、特にアメリカの東亞併呑野望、太平洋制覇欲の脊骨に一大痛撃を加へてこれを挫折せしめ、世界海

戦史に不朽の金字塔を樹立した原動力であつたことは何人も否定できないであらう。

それは日本海海戦の勝利が世界海戦史上空前の事象として、歐米中心の戦争に對する全面的變革の烽火として、日本戦術の驚歎すべき顯現として、イギリス流やアメリカ流の戦略理論に一大痛撃を與へ、アングロサクソン本位の海上權力論に對する挑戦狀として世界海戦の方向に大轉換を齎した以上の意義を有するものである。

今日新兵器——潜水艦及び飛行機の異常な發達に伴つて、イギリス海上權が致命的脅威下にあることは、海上權そのもの脆弱性によるものでもなければ、海上武力使命の消滅や崩壊を意味するものでもない。制海權を失つた場合、いかなる運命に逢着するかは現在までの諸海戦を想起すれば充分であらう。と同時に兵器の如何なる進歩發達にもせよ海戦の最終目標は海洋支配權の爭奪にあることは

銘記されねばならない。しかも大東亞戦争の特質は太平洋を主戦場とする海洋國家の争戦であることを忘却してはならない。

海戦は航空兵力の主兵的立場獲得によつて著しく變つて來た。海戦の特質としては、乾坤一擲の決戦が、戦局の決定權を握つた海戦は、日本海海戦を以て最後と考へられるといふ觀察は誤りではないかもしれない。

然しながら不斷の準備と訓練の累積による決戦が、戦局の大勢を決定した時代はすでに過ぎたのであると考へる思想は危険であると共に、勿論過去の蓄積による綜合戦力のみによつて勝敗が決せられるといふことも當つてゐない。

決戦の連續が其の累積效果への單純な期待を約束するものではなく近代戦が過去現在及び將來に亘る、あらゆる部門の努力の結集の端的な表現と見做されねばならぬ。

海上決戦が興廢の分岐點であるといふことは、現代にあつては往時の戰略的意

義よりも更に苛酷な内容、即ち間斷なき消耗と補給の連續を必要とすることを、しつかりと認識してゐなければならぬ。

日米戦の主戦場が廣大な太平洋である以上は現在までも左様であつた様に海戦の反覆や基地争奪戦の連續のみによつて、其の局を結ぶものとは信じられない。

ハワイ海戦をはじめ従來の海戦の價値を決して輕視するわけではなく、單に一回の決定的海戦は現代戦には存在しなくなつたといふ意味である。また航空兵力の壓倒的重要役割の問題は別として、これのみを以て特に基地航空兵力のみを以て、太平洋制壓が出來るとは言へないと思ふ。この現に掌握された太平洋支配權を微動だせしめない使命こそ、わが海軍力の最高の使命であると共に、海上よりする敵反撃を隨所に破棄すべき任務も亦海軍の負ふべきものである。今日の海上作戦は總力戦の最も直接的な形態を興へつゝ激甚な生産と消耗を伴ふ戦力増強を補給の連續として反覆しつゝあると共に海軍力はその背後の推進力として儼然

として最後の段階に向つて選算なきを期せねばならぬのである。

### 八 敵側の恐れる帝國海軍

帝國海軍は世界無比の精銳である。

其の所以は

- 一 帝國海軍は數よりも實力と精神力で敵を壓倒してゐること。
- 二 倒れて後止む攻撃力が旺盛であること。
- 三 作戦が巧妙なこと。
- 四 機材兵器が秀れてゐること。
- 五 軍規が厳正なこと。
- 六 雷撃が海軍の獨壇場であること。

七 猛訓練は戦闘中も続けられ其の戦力が何時も最上の状態にあること。

八 人の團結と和合が鐵壁であること。

九 支那事變の體驗が彼等の戦闘技術に格段の差を生じたこと。

一〇 前線と銃後の呼吸が完全に一致し後顧の憂ひなきこと。

一一 日本人の氣質體質が海軍生活に適し、あらゆる困難を克服し得られること。

### (一) 海鷲魂

これぞわが海軍航空隊の眞面目であり、打続く大戦果もこの魂の表現に外ならない。私は海鷲魂こそ生への執着を解脱した忠君愛國の赤心であり、七生報國の情熱であると共に、敵を斃すまで死なぬ攻撃精神であると思ふ。

この魂こそ帝國海軍獨特の猛訓練によつて純粹無垢な大和魂が昇華したものである。この魂が敵には不可解の謎である體當り戦法となり、自爆となつて現れる

のである。敵中自決の乗身戦法ともいへる自爆について、私はいくた壯烈な實例を目撃することが出来た。昨年二月一日マーシャル群島に敵大機動部隊が來襲した時、故中井一夫中佐(さきに感状を授かる)はわづか〇機の爆撃隊を率ゐ、意外に強力な敵を撃滅するため一機をもつて一艦を屠る必死の決意を固めるや、基地に若い電信兵を残し敵空母めがけて全弾を抱いて突入して行つた。この中佐の最後をきいた同期の〇〇大尉は中佐の寫眞を抱いて第一次ソロモン海戦に敵巡洋艦に自爆し、一機まゝ一艦を撃滅した。その時の大尉機の突撃ぶりを見た僚機は、大尉機が一旦投擲して舞ひ上り、二度目に敵艦めがけて真逆様に降下して行つた最期を見届けたのである。

又ポートモレスビー爆撃に加はつた〇〇兵曹機は兩翼に一尺大の破孔を生じ搭乗員も殆んど戦死し、残された電信兵は不慣れた操縦桿を握り編隊と行を共にした。しかし燃料噴出甚しく力盡きて「われ今より自爆す」と打電、最後の勇を鼓して

編隊の先頭に出たと見るや、飛行帽を振り指揮官機に擧手の禮を終ると共に海中めがけて姿を没して行つた。わが海鷲の自爆は敵の上空と否とを問はず壯烈鬼神をなかしむるものがある。

(二) 米英の正體

敵時にアメリカの戦力はどうか、過大に評價する必要はないが過少評價する事は出来ないと思ふ。ウエートキ攻略戦で最後まで抵抗した敵空軍は叩かれても叩かれても出撃してきてゐる。南太平洋方面の敵の戦意は相當なものである。その半面ソロモンの上空で我に立ち向つた敵機が大した被害もないのに落下傘で逃げ出したりマキンに上陸した敵兵が九腰で逃げ出したり、撃沈された敵艦の乗組員が合掌して我艦船に助けを求めたり、精銳無比と自稱する陸兵が、わが軍の突撃の前に民族の優越感もどこへやら泣きわめく醜態をしばしば見聞して、彼我の戦力が分つた様な氣もした。小敵と見れば勇敢に攻撃し、叶はじとなればあつさり降

伏する彼等の十八番は警戒すべきことかも知れない。  
ソロモンで俘虜となつた米兵は

「日本の力はアメリカ、イギリスに次ぐ世界第三位でわれわれが國を出る時、フィリッピンを奪還したら歸るぞと勇んで見送つた國民の認識不足がうらめしい。アメリカはとも勝てない。東洋の一小國がどうしてこんなに強いが、將兵の士氣、團結、兵器、大和魂、肉弾、軍規等にその現質を見た、私はアメリカとイギリスの前途に諦めを持つてゐる。もう戦争はあきあきした本職の大功がいよいよ。」

18

と、うそぶいてゐた。  
然し彼等は一旦形勢よしと見るや鬼畜にも優る野獸の本能を發揮する、我々は彼等が永年に互る悪業を思ひ、その正體を見誤らず俘虜に陥むにも勝利者の誇りをもつてすべきである。武士道を解せぬ彼等米英には、こちらから武士の情を施す必要がないことを痛感した。

### 九 海鷲の戦闘談

- (一) 指揮官機が真先に危険なところへ突き込んで行つて爆撃する。
- (二) 敵機は晝間爆撃に来るけれどもすぐ編隊を崩してしまふ。ところが我が航空隊は行くに決定して計畫をきめたらどんな犠牲があつても厭はず行つて、高角砲弾がどんなに激しくても、がっちり編隊を組んで行く(編隊を崩さず行くといふことは爆撃の鉄則である)そして味方の一部がやられても少しも動じないで命令通り徹底的にやる、どこまでも突込んで行く、敵が無茶だと思ふ位にやる、一旦敵に損害を與へるといふ目的を以てやり出した以上はどんなことがあつても徹底的に損害を與へなければやまない。

19

この點が敵と全然違ふところである。

(三) 我勇士は自分の愛機と運命を共にするが、敵の飛行士は自分の機がいよいよ駄目と思つたら落下傘で、とひ降りて生命を助からうとする。或日我が海軍基地に來襲した敵ボーイング機が、我が防禦砲火を避退しようとして急に機首を下げた。それで敵の機銃射手の軍曹が墜落と間違へて前の扉を開けて自分一人落下傘で飛び降りてしまった。其の中敵機は機首をあげて歸つてしまつたのであつて者の軍曹はどうも我軍の捕虜になつてしまつた。

(四) 飛行機は操縦者と偵察者、射手との三者が一心同體になつて初めて立派な活躍が出来るのである。普通母艦に載せて行く飛行機は狭いから座席に坐つたきりで動くことが出来ないそれで傳聲管で話をするのであるが、長い間訓練してゐると後で何と言はなくても第六感が働いてお互に以心傳心で意志が非常によく通ずる様になる。普段の訓練ですべての状況に即應じて指揮官の意圖に従つ

て自分のなすべきことを黙つてやれる様になるのである、そこで初めて確實に爆弾や魚雷を命中させることが出来る様になる。我が帝國海軍は何時でも斯様な訓練をやつてゐる。

(五) 珊瑚海海戦の時最初敵艦隊を發見した索敵機は、之を母艦に報告するとわざわざ味方の攻撃隊を途中まで迎へに來て、自分は母艦までたどりつく燃料しかないのに、母艦へ歸らうとせず又引返して味方を誘導し、攻撃隊が敵艦に取つたのを見て、自らは其の燃料が無くなつて壯烈な自爆を遂げたのである。反攻を企圖して進出して來た米英聯合艦隊の主力艦たる米國最大の空母サラトガ(三萬三千噸)米空母ヨークタウン(二萬九千九百噸)米戰艦カリフォルニア(三萬三千六百噸)英巡洋艦トランド型を轟沈し、英戰艦ウォスバイト(三萬六千噸)米戰艦ノースカロライナ(三萬五千噸)其他巡洋艦驅逐艦を大破せしめた上、空中戦闘のみで九十八機を撃墜するといふ大戦果のかけに、この自

らは何の攻撃武器もたぬ索敵機の自分を捨てた壮烈な行動があることを忘れてはならぬのである。

(六) 目ざすは敵の航空母艦だ。而も敵は世界一を誇つてゐたサラトガと自慢のヨークタウン。私はすでに数年前「この俺の體はサラトガととりかへっこするんだからな、戦が始つたら俺はサラトガと差ちがへて死ぬんだ」と酔へば必ず昂然と斯う肩を上げた海軍の飛行將校を知つてゐる。この氣持ちは一人この士官のものばかりではなかつた筈である。

映畫で大宣傳をしたばかりでなく、我國の米國通ひの客船がホノルルなどに寄港すると、これ見よがしに多數の飛行機を發航させてデモつたサラトガ、このサラトガが今日の前にゐるのである。「この俺の體はサラトガと取り代へっこするんだ」と云ふあの士官の氣持ちは、今攻撃機に搭乗してこの艦の上に殺到した若い人達の心にも流れてゐたであらう。

### 十 日本海軍の精神力

○二死以て君國に報ずる精神、一兵に至るまで従容として死におもひく海軍精神こそ世界無比なるもので敵國の最も恐れてゐる點である。

○一機一艦の體當り戦法、味方の大事と見るや敢然と敵機に體當りして敵諸共散華する。第一次第二次特別攻撃隊となる。

○第二次特別攻撃隊のシドニー攻撃後濠洲がやつた攻撃隊四勇士に對する鄭重な取扱は、あれはイギリス海軍士官の騎士道的精神が現れてゐるといふふうに見えますが、一つは彼等が日本に物價では負けないと考へてゐるが精神力では絶對に日本が強いと思つてゐる。その精神力を養成することにどうしても手が出ないので、四勇士の行ひに打たれて、其の打たれた氣持を誇張してなるべく



鄭重に扱つて、斯くの如く命を捨て、國に盡す氣持があれば、一人の人間がこれだけのことが出来るのだといふことを宣傳して、「溘洲の青年よ起て」といふ精神力昂揚に持つていつたわけである。

### 十一 無敵潜水艦を語る

帝國海軍における潜水艦の使用法は他の諸國の場合とは非常に異なるのであつて、列強海軍の場合には多く通商破壊戦に使用される、獲物は商船である。戦艦、航空母艦に對しては殆ど攻撃を加へ得ないが帝國潜水艦は通商破壊戦の武器として育て上げられたものではない。艦隊主力の決戦場に現れて敵の主力艦、航空母艦を撃沈する武器として育て上げられて来たものである。殊に世界最大の海洋に行動し、場合によれば大西洋にすら驕足を伸ばさうといふ意圖からして、どうして

も大型の潜水艦が必要であつた。今日のドイツが持つてゐる潜水艦に比べて五六倍の排水量を持つた巨大な潜水艦を多く備へなければならなかつた。

しかるに日本はロンドン軍縮條約で總トン数が制限されたので、自ら隻数を減らさなければならなかつた。帝國海軍の潜水艦について考へる時、今日の急務は迅速に隻数の整備であらうと思ふ。

もう一つ帝國海軍潜水艦のため辯じたいことは帝國潜水艦が獲物として狙ふものは、敵の戦艦であり、空母である。彼等は巡洋艦をさへも避けることがある。

まして小さな商船の一二隻のために貴重な上にも貴重な魚雷を消費する様なことは帝國海軍潜水艦の將士の忍び得ることではない。これは潜水艦の使用法から考へて見れば、直ちに納得のできることと思ふ。

日本人は一般に體格は小さい方で腰が強く、そしてすばしく忍耐があるのが潜水艦乗りには最適といふべきである。

## 十二 敵の怖れる我が造艦技術

### (一) 自力で主力艦を

明治維新海軍省が創設された當時の軍艦は、全部諸外國に注文して製造したものであった。

日清戦争の時にはほとんど外國製の船ばかりでやつたのであるが日露戦争の頃に至つて初めて小艦や水雷艇位が日本で出来る様になつたのである。

日露戦争の始め頃「八島」「初瀬」が沈んだ。そこで之を補充する爲には戦争中ではあり外國に頼つてをどうにもならぬ、これから軍艦は全部内國製品だけで造らうといふ方針を立て、「筑波」「生駒」の裝甲巡洋艦の建造が計畫された

のである。

其の後、我國では日露戦争の時の経験を生かして種々研究を加へ、戦艦の建造技術がだんだん發達し、先進の歐米諸國を次第に凌駕した。

### (二) 世界驚異の「夕張」

第二次世界大戦後各國の建艦競争漸く熾烈を加へつゝある時我が平賀博士は非常な苦心研究の結果遂に巡洋艦「夕張」を造つた。夕張は他の同級巡洋艦に比べて、建艦費は六割も安く出来る上、その大砲や水雷等の兵器の威力は全く變らなく、おまけに速力も同じといふのであるから、全く世界の造艦技術界の驚異であつた。平賀博士がこの「夕張」によつて示したところは、無駄を省いて艦全體の目を出来るだけ減らす、そして砲の配置を艦の中心線に並べて全砲門が兩舷に向つて攻撃出来る様にした。その上、軍艦の目的は戦争をやつて勝つことにある。それを主眼として、第二義的なものを制限し或は簡單にするといふ方針であつ

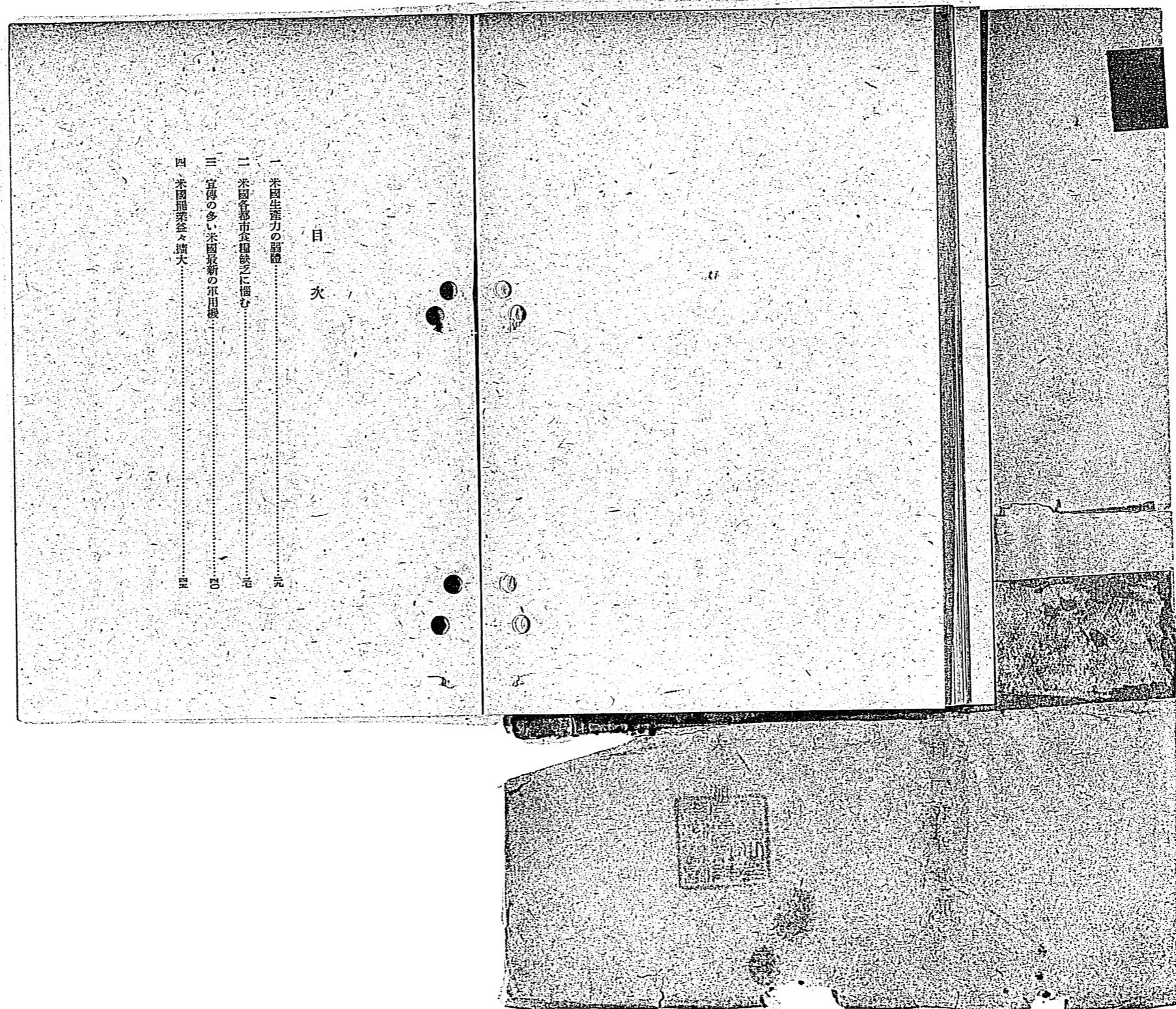
た。

外國の軍艦は乗員の住居なども相當によくしてあるし兵員の保健衛生や娛樂設備を考慮して造るといふのが第二義的な考へ方であつた。ところが日本ではそれを第二義的にしてしまつた。そして戦争を目的とするといふことだけに進んだので乗員の住居など非常に窮屈にしてある。この方針で以後の建艦を進めたのである。「古鷹」級(七千五百トン)は普通外國では一萬トン以上の艦でないといふと據えるのは無理であるといふた八インチ砲を主砲としてゐる。又「陸奥」「長門」級の戦艦もこれによつて建造されたもので、帝國の建艦技術は世界の脅威となつたのである。

この精銳無比な軍艦に乗組んで戦ふ我が將兵は、正宗の名刀を持つて戦ふ武士の様に、常に限りなき自信と必勝の勇猛心に燃え立つてゐるのである。

(昭和二八、六、二〇)

附  
アメリカの内情



目次

- 一 米國生産力の弱體.....元
- 二 米國各都市食糧缺乏に備む.....元
- 三 宣傳の多い米國最新の征用機.....元
- 四 米國糧菜益々増大.....元

REEL No. A-0510



一 米國生産力の弱體

1 反樞軸國戦力の支柱米國

反樞軸國の軍需廠である米國の生産力を如何に見透し得るかは依然として、この世界戦争の將來を考へる最も重要な條件の一つである。英國も、ソ聯も、米國の支援がなくなれば、その抗戦力は著しく低下する。重慶、瀋洲に至つてはガタ落ちである。それは米國の飛行機、其他の兵器、軍需品の供給が止むと云ふ様な、單純な意味だけではなく、反樞軸國側の総合的戦争力の支柱の崩潰と云ふ意味に於てである。即ち米國の生産力は米國一國の抗戦力を規定する條件ではなく、反樞軸國全體の戦争力の問題である。

殊に、彼等を取り分けて、この生産力に期待を懸けてゐる。近代戦に於ける科

學兵器の偉力を輕視する者は、最早何處にもないが、而し、彼等は、その生産力が歴史的に大きく、又技術的にも格段の優位を保持してゐると云ふ一種の獨善主義と、此の歴史的に強く大きな近代的生産力に依つて、一舉に事を決し得ると云ふ、物質に對する依頼感が格別に強い。近代の物質文明を造り上げる長い過程を通じて特に、この思想的性格が強く形成されたのである。

従つて、生産力と云ふものは、彼等の場合に於て戦争意識を支へてゐる非常に大きな條件であり、生産力の強化は、勝利の希望を繁く非盤である。

生産力の停滞と混乱と衰退とが訪れる時、或は彼等の最大限の生産力を驅使しても、尙且、日、獨、伊の絶對不敗の陣形に、齒が立たないと云ふ事實認識を抱いた時に、彼等の勝利の希望は動搖し、戦争意識は下火になり、國民の輿論は青ざめて來るのである。その青ざめた輿論が纏て厭戦思想になり、非戦論になるのは、未だ未だすつと後の事であり、今の米國は火の手が立ち上つて暫くした盛に

炎え上つてゐる時代なのである。

この炎え盛つてゐる戦争熱を、冷却させる事が當面の課題であるが、そしてこれには勿論何よりも先づ戦線に於て、彼等が拂ふ血の犠牲が累積して、その父母、その兄弟、その子供達の戦争意識が深刻に攪き亂されねばならぬ、けれ共彼等の經濟國力を擧げて、總動員をしても得られるものは、この血の報酬と國內の物資不足のみであると云ふ事實認識を、彼等が抱くに至る事が絶對に必要である。云ひ換へれば彼等の國力の限界を彼等が自覺し、その限界力を以てしても世界制覇の野望は遂に達せられない事を觀念させるのが、この戦争の當面の山であつて、此處に於て彼等の生産力の見透しが最も基本的な問題になつて來るのである。

## 2 軍需生産のからくり

今年の春、ルーズヴェルトは議會で、米國の軍需生産が昨年中に飛躍的に躍進

した事を誇示した、その細な数字は此處に繰り返さないが、其後に米國情報局から發表された綜合的結果に依ると、ルーズヴェルト計畫の八八%が實行された事になり、又それ以前の十八ヶ月間の軍需生産実績の約三倍に増大した事になるのである。この飛躍的増大が如何にして可能であつたかと云ふと、その最も根本的條件は、米國の重化學工業が、平和時代に於て既に高度の發達を遂げてゐたのであるが、その重化學工業の生産力を軍需生産力に轉換する事が可能であり、又それが斷行されたと云ふ點に求められる。平時に於ける重化學工業のこの基盤なくしては、かかる飛躍的發展は絶対に不可能である。即ち、從來の生産力プラス軍需品生産力の飛躍的増強でなく、從來の工業生産力をマイナスして、軍需生産力に轉換したのである。日本の場合の様に、工場設備、労働力、技術動力、原料、資材、その輸送力等に、一切の生産條件を總て新しく増大するのではなく、それ等の總ては、現に存在して居り、他の物資を作る生産力となつて活動して居たのである。

る。軍需品生産に直に切り換へ得る、潜在的生産力を發動したのである。

勿論、一九四〇年六月に樹てた國防充實計畫に依り、新設された軍需工場や軍需原料資材の準備蓄積が昨年になつて活動し出したと云ふ事情もあるが、根本は米國が、軍需品の生産に轉換し得る様な性質の工業生産力、例へば自動車、飛行機、鐵工業、機械金屬工業、諸種の化學工業を豊に持つてゐたと云ふ事である。昨年ルーズヴェルトは、米國の生産力の半分を軍需生産力化すると云つたが、今年は更に總生産力の三分の二を軍需生産力化すると、戦時生産局は云つてゐるのである。そしてこの計畫が、財政的には二千億弗豫算となつて現はれて來てゐるのである。

### 3 労働動員に苦慮

生産の原動力は何と云つても労働力である。しかるに米國に於ける人的資源の動員は、略々その限度に到達しつつある。一九四二年末に、産業第一線の従業者

と軍隊とは合せて五千二百萬人であつたと推定される。その配分は軍隊二百十萬、軍需産業六百九十萬、一般産業四千三百萬であつた。昨年の軍需増産及び軍隊編成計畫に依ると、この配分を、軍隊を六百七十萬、軍需産業を千七百五十萬に増やし、一般産業を三千五百八十萬に減らし、その總計を六千萬に擴大する豫定であつたが、實際は、軍隊は五百萬、軍需産業は八百七十萬迄しか増大し得ず、一般産業は四千七十萬迄しか減らし得なかつた。従つてその總計は五千四百四十萬迄しか殖やし得なかつたのである。

處が、今年の軍需増強計畫と軍隊編成計畫に依れば、軍隊は二千萬乃至二千二百萬にし、軍需産業の労働者は二千萬人に殖やす必要があり、その爲に、其他一般産業の従業者を三千三百萬人に減らし、且つ新しい労働力を八百六十萬人動員する必要がある事になるのである。而しこの様な計畫は最早、實行可能でない。未だ動員されざる労働力は、婦人、老幼と、極めて僅かの失業者と、外國からの

労働移民とであるが、之等の動員は、最早急激に效果的には進まない。

#### 4 海外依存の原料資材

米國の海外依存物資の主なるものは、ゴム、錫その他東亞の特産物であるが、在庫品は漸次枯渇して行く。

米國はその天然資源に於て恵まれてゐる事は周知の通りであるが、その米國にも資源的な弱點は持つてゐるので、製鐵に絶対必要なマンガンを始め、特殊鋼用配合元素の多くは、從來西半球以外の地から供給を受けて居り、天然ゴムに至つては、南米に極めて少量の供給を期待し得るに過ぎず、人造ゴムの大量増産は容易に進捗しない。又之以上の大規模増産には、工場設備を始めとして、凡ゆる生産要素の増強が必要だが、それは最早急激には進まない。殊に絶えず實戦の経験を織り込み、新しい設計を要する近代兵器に於て、經濟的大量生産は許されない。



實際問題としても戦時生産局の發表は、昨年未迄は極めて實證的で自信に満ちてゐたが、近頃はしどろもどろな感を受ける。例へば、一月の全體としての武器生産は十二月に比して八%低下し、二月は一月より八%増えたと云つた調子である。

#### 5 國民生活への影響

處で、かうした軍需増産は、國民生活に何を齎したかと云ふと、一面では民需物資の生産を削減、供給の不圓滑、他面では政府支出の増大に依る貨幣購買力だけを無暗に膨脹させてゐるのである。

聯邦準備銀行、春の流通高は、去る三月下旬迄の一年間に八十五億弗から百二十億弗に、即ち四十億弗(五割)も膨脹してゐるが、この増大は大部分政府證券の手持増大と見合つてゐるのであつて、結局、發券中央銀行が公債を背負ひ込んで

紙幣を増發したのである。

しかるに民需物資の供給も、昨年末からぐんと不圓滑化し、消費全般に互つて、統制を要する様になつて居り、續いて、罐詰類、乾燥野菜等の割當制度を實施するに至つてゐる。被服類の一部には既に猛烈な買溜めが起つてゐる。最近海外情報に依れば、米國各都市の食糧品不足はその極に達し、市民の不平不満が訴へられてゐると云はれて居る。

かうした戦時インフレーションの初期の現象は、供給の總額が減ると同時に買溜め、賣借みが流行し、物資が正常な商業的流通道程から姿を消して了つた爲に、一層拍車を加へられ、輪に輪をかけた形で大衆生活を毀つて來るのである。

#### 二 米國各都市食糧缺乏に悩む

米國民の食糧消費量が如何に莫大なるかを語る一證左として「米國民の喰ひ残して支那四億の民が養へる」と云はれてゐる。之を金額に見積ると、米國民は一ヶ年間に約百二十億弗の食糧品を消費してゐる計算になる。又之は全米の一ヶ年間の總小賣上高の三分の二に相當すると云はれてゐる。尙商品別に見ると、  
罐詰及び八百屋(二五%)生肉(二八%)果物(一〇%)野菜(二二%)バター及チーズ(九%)ミルク、クリーム(五%)パン類(四%)等であるが、最近米國各都市共食糧品の不足を告げ、去る六月一日のストックホルム發T.O通信は左の如く報じてゐる。

ストックホルム市の貿易紙、コーマネアン紙の發表に依ると、最近米國各都市は、食糧品が極度に不足し市民は臺所の脅威を受けてゐるが、各都市の窮乏状態を見ると、

ロサンゼルスは最も食糧缺乏を來し、已に九百の飲食店と二百の漬物店が閉

店してゐる。牛乳は五割から七割五分迄配給不可能となつた。バターは未だ列を  
作れば手に入つてゐる。

ボストンでは馬肉の販賣を開始し、一斤二十五仙から五十仙をよんでゐる。

シカゴ市の食糧状況も最近頗る悪く、バターは全く無く、マカロニーと野菜も  
茲一ヶ月間已に購入出來ず、罐詰肉は市場から影を没して居る。

ニューヨークに於ては已に長期に亘り、普通供給量の三割以上の肉類は手に入  
らない。又牛は殆んど見られない。

フィラデルフィアではもう一ヶ月前から一片の肉類もない。

ポートランドは罐詰會社が六ヶ所閉鎖したと云はれる。

デトロイトでは二九の罐詰會社が閉鎖され、サンデーゴ(墨國國境都市)に於て  
は、市當局が國境を越えて墨國に入り、手に入る肉類は種類の如何を問はず買占  
してゐると傳へてゐる。

### 三 宣傳の多い米國最新の軍用機

敵米國は反樞軸國の兵器廠として、又對日反擊を企圖して、建國以來の龐大な軍備に狂奔してゐる。最近の新聞紙上には、米國に於ける飛行機の名稱が頻繁に現はれるやうになつたが、それは戰場に於ける實際の性能に依るといふよりも寧ろ米國の宣傳機關の活動や競争會社の自家廣告に依るものが多い。事實、性能といふ點では米國の飛行機はまだまだ限られてゐて、殆ど例外なしに樞軸國の飛行機には及ばない。アメリカの飛行機は文字と數字の組合せや、思ひつきの名稱で呼ばれてゐるので、一般の人にはそれを區別することは難かしい。

これは米國軍用機のうち、最も主要なものについて「二十世紀」に掲載されたものであるが、勿論資料は米國側から出たものである。

#### 1 數字のカラクリ

速度といふことは爆撃機の戦闘能力にとって、最も大切な要素の一つであるので、特に米國飛行機製作會社は自社製の飛行機の性質を麗々しく發表して、これに宣傳に努めるものであるが、發表される性能の數字は、往々にして一つの性能を單獨に切り離せば、或は可能であり、誇張されてゐても極く僅かであるが、他のいろいろな性能と組み合せると不可能になるやうな數字なのである。

例へば、或る製作會社は自社の飛行機は毎時四百哩の速度を持ち、その飛行半徑は千哩で、六挺の機關銃を備へてゐて、更に百ポンドの爆弾を六箇搭載することも出来るといふ。併しそれを仔細に調べると、成程その飛行機が、毎時三百九十二哩の速度で飛んだことはあるが、その時は餘計なものは全部取除かれてゐて、機關銃も彈藥も搭載せず、燃料も極く小量で然もその燃料は特別の競争用のもので

あつたと云ふことが判明した。  
従つて完全に戦闘装備をしたならば、その飛行機は僅かに三百四十哩乃至三百五十哩の時速しか出し得ない。更に若しこれに爆弾を積み、公稱通りの千哩の航続に必要な燃料を充分積み込んだならば、その最大時速は更に低下することは想像出来るであらう。

### 2 宣傳の多い戦闘機

米國戰時情報局は、昨年十二月二十日、自國製飛行機の品質と、戦線に於けるその性能に關して詳細な報告を行つたが、面白いことには、その中で近代の空戦に通有な非常な高空では、ベルP三九もカーチスP四〇も、共にドイツのメッサーシュミット一〇九や、オルケ・グルフ一九〇に劣ると、率直に認められてゐる。英國に渡つてゐる米國驅逐機の操縦士は、現在では自國製のカーチスP四〇の代

りにスピットファイヤを使用してゐるといふことである。

更にこれは米國の某雑誌に掲載されたものであるが、セヴァスキー會社の技師兼テストパイロットであるフランク・シンクレアの報告に依ると「日本軍は千馬力のモーターを装備した單座戦闘機で、米國のどんな飛行機の廻りでも輪を畫いて飛び得るであらう飛行機を持つてゐる」と發表してゐると云ふことである。

ロックヒードP三八「ライトニング」は新設計の飛行機である。千二百馬力のアリソン發動機二臺を備へた非常に速い機であるが、餘り早いので、野外試験飛行の際、操縦士は遂に制し切れなくなつて墜落したと云ふことである。これ等の事實から考へても分る様に、近代の軍用機製作の要諦は、唯單にスピードばかりでなく、スピードと同時に、運動性を考慮することである。この點に就いては、日本の「隼」などは優秀な戦闘機で兩者をうまく結合してゐる。即ちドイツの飛行機以外には、世界のどの戦闘機も遠く及ばないまでに速力と運動性とが巧妙に結び

合はされるのである。

最近、西南太平洋方面に於て名前を賣つてゐる「ゴット・シヨルスキR四〇」は、その製作會社の宣傳に依ると「世界で最も速い飛行機」であると云ふことである。リパブリック會社は新に二千馬力の驅逐機P四七「サーゲイホルト」(霹靂)を製作するに至つたが、これも又「世界で最も速い飛行機」と斷言されてゐる。

米國人は戦時でも、商業上の競争の爲、宣傳を續けなければならない。しかし世界の絶対スピードの記録はマッサー・シム・ント一〇九Rに依つて保持されてゐる。その後米國の會社がこの四百六十三哩(七百五十五呎)の記録を破つたとしたならば、彼等のことであるから黙つてゐる筈はない。

この外、急降下爆撃機、中型、重爆撃機、偵察機と輸送機等に新しい名前を擧げてゐるが、現在米國は東亞、歐洲に於ける戦闘で、缺陷が明瞭になつた飛行機

の設計變更に躍起となつて居り、樞軸國の飛行機の水準にまで高めようとしてゐる。しかし従來の經驗に依ると、新しい型を大量に生産するには、試作機が全く申分ないものであると立證されてから三ヶ年を要する。この事實は、既に大量製作が行はれてゐる飛行機の設計が變更される場合でも同様である。

これ等の事情から考へてみると、米國の飛行機が現在の樞軸國の飛行機に匹敵する迄には今後三年を要する。しかし樞軸國側の設計室や工場も唯徒らに手を拱いてはゐない。

しかも樞軸國側には、その航空部隊が遙か多くの實戰的經驗を積んでゐるといふ強みのあることも争はれぬ事實である。

#### 四 米國罷業益々擴大

六月七日、一旦妥協解決を見た米國炭坑罷業は又しても悪化し、労働者は罷業に入つたと六月十九日、グエノメアインテロ情報報は傳へてゐる。即ち六月十八日、米國戦時労働局が組合側の根本的要求である「入坑時間を労働時間と見做すべし」との提案を拒否した結果東部炭坑地帯の炭坑争議となつたものである。

斯くの如く、炭坑問題は抜本的解決をなし得ず、罷業に罷業を重ねる途には米國に全軍需産業を麻痺せしめるのではないかとその前途を危ぶまれてゐるが、戦時労働局長も、内務長官も、又労働仲裁局長も罷業解消に大重になつてゐる。現在米國には炭坑罷業の外に今後益々増加の傾向にあるゴム労働者罷業があるが、米國アクロンに於けるゴム労働者の罷業は愈々事態悪化し、一刻も猶豫すべからざる危険状態に立至つた爲、ルイズグネルトは、即時罷業停止の文書を送つたと云はれる。しかし何れ程の効果があつたかは判明しない。又鐵工所方面に於ても罷業の火手は昇がり、ケンタッキー州ミューボートのア

ンドン大鐵工所に於ては、四千名の従業員が六月一日總罷業に入り、二割三分の賃銀値上を迫つてゐると華府發UP通信は報じてゐる。

罷業の狼煙は隨所に上がり、米國當局をして、その對策に頭を悩ましてゐるが、當局としては、最も憂慮する處は、むしろ罷業者の要求を全面的に容れれば、他の罷業を誘發し、凡ゆる労働團體は罷業を以て要求を解決せんとする形勢に出る所にあると云はれる。之は米國政府のインフレーション防止策の破綻、即ち賃銀の固定には一應成功しながらも、物價の騰貴を阻止し得ず、次第に兩者の併行的騰貴を誘致してゐる事實を雄辯に物語るものである。然も米國の罷業は、自發的に行はれたもので、如何なる強權を以てしても抑壓し得ないものがある。(昭和二八、六、二二)

皇民奉公書  
第三十輯

不許  
複製

昭和十八年七月十二日印刷  
昭和十八年七月十六日發行

定價十五錢  
送料四錢

發行人 大澤貞吉

編輯人 大澤貞吉

印刷人 額川首

發行所 臺北市大正町三丁目三十七番地

印刷所 臺南市第四丁目三十二番地

發行所 臺南市中央本部

臺北市文武町二丁目三番地